

日本鉄鋼協会記事

理事会

第10回理事会

開催日：1月19日。場所：協会。出席者：湯川会長他33名。

会議事項

1. 昭和41年度収支予算案に関する件
 大中理事報告 予算の規模は926万4千円の増加となる。41年に1,000～1,500万円の繰越が予想されるが、それは40年度の名種積立金にし、40年の支出としたい。維持会費を横すべりさせてあり、多少支出が窮屈であるが、それは繰越金でカバーしたい。
2. 1970年の国際会議の準備委員会委員長に湯川会長を決定。
3. 政府の委託および補助による研究事業について
 新しく100%の委託金が科学技術庁、大蔵省を通じた。詳細は決定後報告する。
4. IDM協会に入会することに決定。

第11回理事会

開催日：2月23日。場所：協会。出席者：湯川会長他32名。

会議事項

1. 昭和41年度服部賞、香村賞、依論文賞、渡辺二郎賞、渡辺義介賞、渡辺義介記念賞、受賞者決定の件
 表彰選考委員会案通り承認
2. 第10回材料試験連合講演会参加の件
 41年9月8,9日 京大工学部土木総合館、分担金5000円以上
 参加を承認し、運営委員に田中実君（東工大）を決定。
3. 日本鋼構造協会主催 鉄鋼の基本的性質と最近の高張力鋼講演会後援の件
 期日会場 東京 41年3月14～19日 発明会館
 大阪 41年3月24～26日 科学技術センター
4. 東海原子力懇親会主催 第4回原子炉建設に関する特別講演会後援の件
 41年3月17,18日 東海原子力クラブ後援に決定。

昭和40年度第2回評議委員会

開催日：2月23日。場所：協会。出席者：湯川会長他39名。

会議事項

1. 昭和40年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件
 40年度事業につき特筆すべきものは鉄鋼標準化事業の促進、鉄鋼標準試料の整備、基礎共同研究の拡充、技術講座の実施である。
2. 定款一部変更の件
 (1) 41年11月より事務所を「千代田区丸ノ内1-1」より「千代田区大手町1-5」に変更
 (2) 42年1月より正会員会費「年会費2000円」を

「年会費2400円」に、学生会員会費「年会費1200円」を「年会費1500円」に、変更する。

3. 昭和41年度事業計画案、収支予算案の件
 事業内容は40年と大体同じでより活発化したい。

企画委員会

第10回委員会

開催日：1月18日。場所：協会。出席者：辻畑委員長他19名。

会議事項

1. 昭和41年度収支予算に関する件
 大中理事報告 予算編成に当り、維持会費はそのまま横すべり、事業は縮小しない原則に基づいて作成した。規模としては926万4千円の増加となる。新しい費目としてはクリープ委員会費、試験高炉委員会費などが増える。この案を理事会に提出することが承認された。
2. ASTMに年会費500ドルで協会が入会し Sustaining member となることに決定。
3. 国際会議準備委員会に関する件
 1970年の会議にそなえ来年度準備委員会を設置し、委員長を湯川会長に依頼する件を理事会に諮ることに決定。
4. 鉄鋼協会ニュース廃刊に関する件
 ニュースそのものは「鉄と鋼」に掲載してあるので協会ニュースは廃刊する。

第11回委員会

開催日：2月22日。場所：協会。出席者：辻畑委員長他19名。

会議事項

1. 40年度事業報告収支決算41年度事業計画収支予算の件
 大中理事報告 1月分の収支決算では収入が予定以上、支出は予定以下となり2,227万6千円の繰越が出た。収入ののびは37年以降の未収維持会費の徴収ができたことによる。
2. 第1回日本塑性加工学会（会田技術賞、会田技術奨励賞）候補推薦の件
 前者として高速高エネルギー鍛造機の開発（本日製鋼所 及川正）後者として高級超耐熱鋼の熱間加工技術の向上（日本特殊鋼 菅原節男他）を決定。
3. 注目発明候補推薦の件
 非線型の要素を含む系における自動制御方式（八幡製鉄）を決定。

研究委員会

第10回委員会

開催日：1月19日。場所：協会。出席者：今井委員長他19名。

会議事項

1. 田畑専務理事より政府の委託、補助による研究事

業関にする報告がなされた。

昨年に引続き今年も研究活動を推進するために政府の委託金補助金を依頼した結果

(1) 科技厅関係

- 照射試験に 3000 万円
- 溶鋼溶滓グループに 1,050 万円

(2) 通産省関係

昭和41年度鉄工業技術試験研究補助金として工技院にキルド鋼中の非金属介在物の研究製鉄設備の試作研究

マーキング・マシン・クレーンスケールコンベヤスクールを予算申請している。

(3) その他

金材研関係としてクリープに 4 億 4,000 万円。

2. 講演会講習会の開催計画について

(1) 第 1 回技術講座の報告12月15, 16日の両日にわたって大和証券ホールにて開いた。

入席者約430人/2日であり盛会であった。

(2) 次回第 2 回技術講座講演者決定

溶鋼中の酸素の挙動について

	東大	松下 教授
脱酸について	京大	盛 教授
介在物について	東大	荒木 教授

専門家を集めて最新の研究を発表するのではなく、素人向にわかりやすく話をしてもらおう趣旨である。

第11回委員会

開催日: 2月23日. 場所: 大和証券ホール控室. 出席者: 今井委員長他13名.

会議事項

1. 第 3 回技術講座について

古代の製鉄法と将来の製鉄法を主テーマとし、エネルギー、原料事情の変化など講演のテーマについては雀部教授に検討を依頼する。

2. 金属研究の将来計画について

結論なく次回まで次の項目に限定して再度アンケートを行なうことにした。

(1) 既存の研究機関を活用する方法

(2) 鉄鋼協会の奉仕し得る範囲

回答期限 3月15日

編 集 委 員 会

第11回委員会 開催日: 1月14日. 場所: 協会. 出席者: 荒木委員長他21名.

会議事項

1. 第71回講演大会において次の特別講演が行なわれることが報告された。

(1) 鉄鋼生産設備能力調査委員会報告講演

(2) 国内炭活用コークス製造試験委員会報告講演

2. 第52年第5号(5月号)掲載論文選定

3. 依論文賞について

各編集委員より7件の論文が推薦があつたので、荒木委員長他6名より成る依論文賞小委員を編成し、依論文賞受賞論文を決定する。

4. 講演論文の今後の進め方について

(1) 簡単な概要(オフセット印刷)で講演を行ない、事後に講演論文を提出する。

(2) 従来通り一応完成した論文を提出し、講演する。

これら2通りの方法を両立させて行なつてゆくという意見が荒木委員長より述べられた。

それに対して(1)を行なうことによつて若い研究者に発表の場を与える、速報性が強まる等々の利点があるとの賛成意見が出され、今後検討を続けることになつた。

第12回委員会 開催日: 2月15日. 場所: 協会. 出席者: 荒木委員長他23名.

会議事項

1. 論文審査発表

2. 鉄と鋼第52年第6号(6月号)掲載論文選定

3. 依論文賞選考小委員会報告

依論文賞

鋼の脱酸の速度論的研究-I, I

東京大学工学部 佐野信雄・塩見純雄・松下幸雄

渡辺義介記念賞

鋼における固溶型硫化物の挙動

北海道大学工学部 松原嘉市

以上2件がそれぞれ推せんされ、表彰選考委員会に報告することになつた

4. 講演論文の募集方法について

前回の委員会で提案された下記の募集方法に基づき事務局より、申込締切、プログラム編成などのタイムスケジュールが提出された。

(1) 従来の講演前に完成論文を提出する方法

(2) 簡単な概要(オフセット印刷)を提出し、講演を行ない事後に講演論文を提出する。

(1), (2)を両立される方法により第72回秋季講演大会より講演募集を行なうことになり、会員告知の方法について次回検討する。

5. アンケートについて

会誌、特に論文および講演論文に対するアンケートを会員312名(無作為抽出)および全会員(会誌挿入)に対して行なつたとの報告。

6. 資料委員会より“資料室だより”欄を会誌に設けてほしいとの要望があつたので、掲載欄を設け資料普及に役立てることに決定。

欧 文 誌 編 集 委 員 会

第5回委員会 開催日: 1月31日. 場所: 協会. 出席者: 荒木委員長他14名.

会議事項

1. vol. V, No. 3 の講評

(1) カラー写真は国産設備の特徴のあるものを掲載する。

(2) vol. VI より Abstracts のポイントを下げる。

2. vol. VI, No. 2 の掲載原稿の選定

原案通り選定決定した。

3. 依頼論文の選定

依論文賞候補論文、第70回講演大会講演、投稿論文より選定した。

4. アブストラクトの分類

会誌分類法に従つて分類する。

資料委員会

第26回委員会 開催日：1月14日。場所：協会。出席者：草川委員長他15名。

会議事項

1. 協会のドキュメンテーションサービスについて
例えば会員にサービスする方法として鉄と鋼に“資料室だより”の欄を設けて協会にきている雑誌の紹介、その他の図書についての紹介などを繰り返していく。
2. 協会資料情況の報告
3. 協会ニュース廃刊の件
協会ニュースは各社の総務関係に対する協会事業のPRの意味も含めて発行してきたが、本委員会としては同一内容が会誌「鉄と鋼」に掲載されているのでニュースをそれに合流させ経費の節減を図る。

第27回委員会 開催日：2月11日。場所：協会。出席者：草川委員長他18名。

会議事項

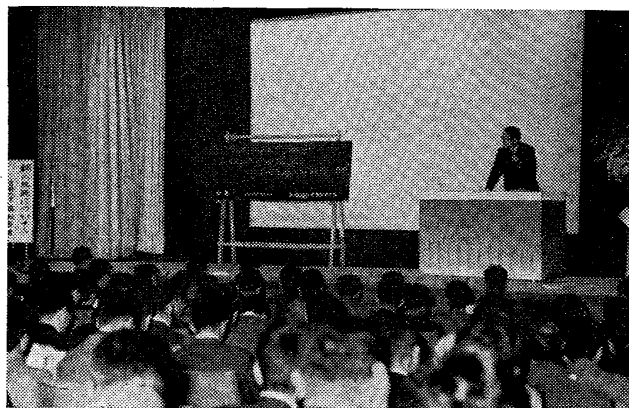
1. 世界鉄鋼関係会議の中から重要な会議をえらび論文の Preprint の入手可能かどうかまず第一に2件の会議について問い合せてみることになった。
2. 当協会は近く ASTM の会員となるので ASTM 関係の資料はすべて入手可能となる。
3. 会誌「鉄と鋼」に約1ページ程度の“資料室だより”(名称未定)を5月号から掲載することになったが、次回にその性格付けをすることとなった。

技術講座開催

会員各位をはじめ関係各位のご要望により、鉄鋼界にあつて製造、研究に従事する者が常識として把握しなければならないテーマを広く取り上げ、権威者から最近の動向、発展の方向などについてお話し願ひ、討論を行なうために、本会ではすでに2回にわたり下記の通り技術講座を開催いたしました。

今後も定期的に開催する予定でありますので、多数会員お誘い合わせのうえご来聴下さい。

1. 第1回技術講座
昭和40年12月15, 16日。大和証券ホール



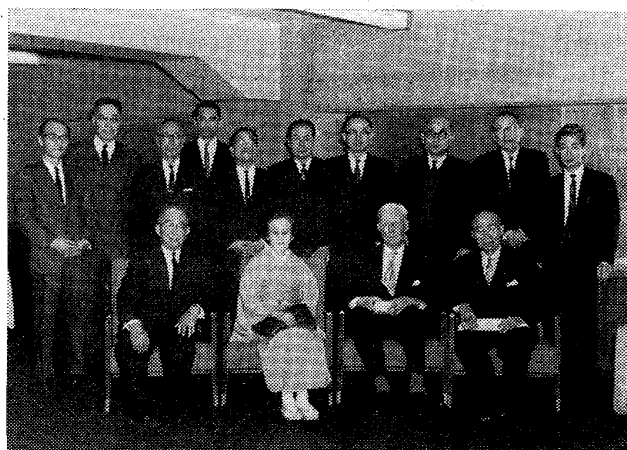
大和証券ホールにおける第2回技術講座

内容

- (1) 鋼中ガスの影響について
東北大 今井 勇之進
住金 下川 義雄
- (2) 真空脱ガス法の現状ならびに問題点
神鋼 成田 貴一
富士 浅野 鋼一
2. 第2回技術講座
昭和41年2月23, 24日。大和証券ホール
 - (1) 鋼中の酸素について
溶鋼中の酸素の挙動について
東大 松下 幸雄
鋼の脱酸について
京大 盛 利貞
鋼中の介在物について
東大 荒木 透
 - (2) 連続铸造法の現状と問題点
コンキャスト式について
住金 牛島 清人
マンネスマン式について
北日特 小池 伸吉

英国鉄鋼協会Headlam-Morley氏来日

日英両鉄鋼協会は1963年姉妹協会の関係を結んで以来急に交流が盛んになり、今回英国鉄鋼協会専務理事 Headlam-Morley 氏は2月上旬一週間 にわたりわが国に滞在し、各地の新鋭製鉄所および日本の史跡を視察した。同氏は英国の名門であるイートンカレッジおよびオックフォード大学の出身で協会の専務として30年間ひたすら学会の事業に専念し、今日の英国鉄鋼協会を築いた最大の貢献者でもある。

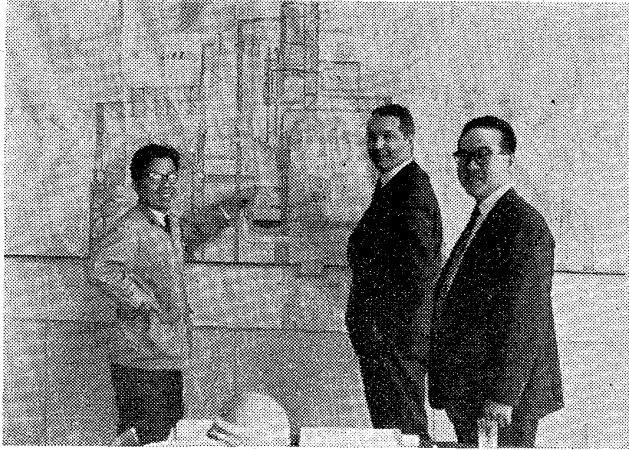


Headlam Marley 氏を囲んで

ドイツ鉄鋼技術者続々来日

昨年の50周年記念行事を契機に日独両鉄鋼協会の間で話し合いが進められていた技術者交流の第1陣として、本年1月15日に Klöckner 社の Haspe 製鉄所冶金部長 Dr. G. Vocke および Bremen 製鉄所高炉工場長 Dipl. H. D. Bubner 両氏が来日、1カ月半にわたり、日本各地の製鉄所の転炉工場と高炉工場を視察し、工場関係者と終始熱心に討議を交えた。今回の訪日は同社の Bremen

製鉄所を年間粗鋼800万トンに拡大する第2次計画立案のための技術調査であり、わが国の高炉および転炉の設備技術がいかに優秀であるかを彼等の来訪が如実に示すものである。



八幡・堺製鉄所を見学中の Vocke 氏

第2陣は、ATH グループの Phoenix Rheinrohr 社の Ruhr 製鉄所の高炉工場長補佐 Dr. Hans Beer 氏が2月20日来日し、日本の高炉設備技術を実習する。

Dr. Beer は八幡製鉄所、堺製鉄所に3週間、1週間それぞれ滞在し、その他、西日本、中部関東、東北、北海道の各製鉄所を1~2日訪問し4月下旬離日する。

第3陣は Krupp 社の B. V. (Bochumer Verein) 鑄造工場の鑄造部長 Dr. Gerhard Tacke が3月15日来日し、約3週間にわたり、日鋼室蘭、三菱長崎製鋼所、八幡技研その他を訪問する。

このように今春の日本鉄鋼業界はドイツより3度にわたる技術者の訪問を迎え、10余年前とは全く逆にその実力の充実ぶりを誇っている。

共同研究会

鉄鋼分析部会

蛍光X線分析第8回分科会 開催日: 2月16日. 場所: 協会. 出席者: 川村主査他25名.
会議事項

- 第7回分科会以後の経過報告
 - 「鉄および鋼の蛍光X線分析方法の通則」および「ステンレス鋼の蛍光X線分析方法」の各案は昭和40年12月2日の第1回JIS鉄鋼蛍光X線分析方法専門委員会にて承認された。
 - 低合金鋼のJIS化作業の推進に関しては在京委員会案をもとにアンケートを実施した。
- 低合金鋼分析の方法について

「鉄、鑄鉄、炭素鋼および低合金鋼」として、一応1元素5%以下を目標にし、補正の問題を重視しない範囲を取り扱うことに決定。ステンレス鋼以下でこの範囲に入らないものは別途考慮する。

設備技術部会

第1回部会 開催日: 1月31日. 場所: 神田学士会館

出席者: 桂部会長他21名.

会議事項

1. 経過報告

機械工業振興に関する補助金を本協会が受け、製鉄機械設備の輸入状況について当部会の業務として調査することになった。

また製鉄機械設備の試作研究について、本協会が41年度補助金を申請中であり、これが認可された場合は同じく当部会の業務となる予定である。

2. 部会運営要領ならびに分科会業務について

(1) 組織

部会	—	鉄鋼設備分科会	—	小委員会
幹事会	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—

(2) 目的

- 製鉄機械設備の国産化推進および新設備の開発とする。
- 分科会業務は目的に沿うよう数種の項目を決めるが具体的な活動は、製鉄機械設備輸入状況の調査および試作研究とする。

3. 製鉄機械設備の試作研究補助金申請について

費用総額 3,500万円. 補助対象額 1,530万円
試作機械は次の通り.

- マーキングマシン
- クレーンスケール
- コンベアスケール

4. 製鉄機械設備の輸入状況調査について

調査対象は次の通り.

- 昭和31年1月1日以降稼働開始
- 輸入金額 1,000万円以上
- 甲種技術提携のみによるものは対象としない。

標準化委員会

第16回幹事会 開催日: 1月17日. 場所: 協会. 出席者: 木下幹事長他15名.

第17回幹事会 開催日: 2月3日. 場所: 協会. 出席者: 木下幹事長他14名.

第18回幹事会 開催日: 2月26日. 場所: 協会. 出席者: 木下幹事長他14名.

第5回委員会 開催日: 2月9日. 場所: 協会. 出席者: 作井委員長, 木下幹事長他22名.

会議事項

- 耐酸性原案作成委員会構成について

溶接関係の人を追加すべきかどうか、また User の代表として、中立機関の人に依頼するのは不適当ではないかとの意見があり、再検討することとした。
- 41年度標準化委員会予算について
- 分科会経過報告

各分科会より、原案作成経過報告を行なった。
- JIS 原案の審議
- 機械用鉄鋼規格実態調査について

アンケート票の集計後、機械業界と打合わせ、検討後報告書を作成する。
- 鉄鋼規格便覧編集について

機械試験方法分科会

第5回分科会 開催日：2月1日。場所：協会。出席者：吉沢主査他8名。

会議事項

薄板、ストリップ関係の規格についての審議。

ISO Recommendation R86, 87, 88, 149, に関する各委員のアンケートによる意見を参照しながら、同 Recommendation の審議を行なった。

第6回分科会 開催日：2月2日。場所：協会。出席者：吉沢主査他10名。

会議事項

衝撃試験関係の規格についての審議

ISO Recommendation R83, 84, 148, 520 に関する審議。

第7回分科会 開催日：2月16日。場所：神田学士会館。出席者：吉沢主査他11名。

会議事項

一般の規格についての審議

ISO Recommendation R82, 86, 89, 375, 147, 377 404 に関する審議。

第8回分科会 開催日：2月18日。場所：神田学士会館。出席者：吉沢主査他7名。

会議事項

高温クリープ関係の規格についての審議

ISO Recommendation R203, 204, 205, 206, 373 に関する審議

焼入硬化層深さ測定法原案分科会

第4回分科会 開催日：1月20日。場所：協会。出席者：小犬丸主査他11名。

会議事項

鋼の火炎焼入硬化層および高周波焼入硬化層深さ測定法の第3次案および解説案の審議。

主査よりマクロ組織片の被検面のアラサが何番に相当するかについての調査報告がなされた。光洋研磨材(株)にたずねたところエメリーの240番で機械仕上げの場合3Sのものが手でみがいて6Sになる。ただし機械仕上げでは、ベルト速度が1500m/min 圧力が1.5キロで鋼種がSS41のケースである。被検面のアラカとエメリーの番数との関係はJISにはなく、320番では3S程度ではないか。

熱間圧延薄鋼板工業標準原案作成分科会

第1回分科会 開催日1月28日。場所：神田学士会館。出席者：五弓主査他15名。

会議事項

1. はじめに本分科会設置の経過説明があり、原案作成上の考え方について資料にもとずき討議した。少なくとも1種(一般用)は厚さ1.2mm未満も考慮すること、厚さの許容差が現行規格より過大などところがあるとの意見があつたので、この点について次回審議する。
2. 熱間圧延薄鋼板および鋼帯の適用範囲と種類について検討。

普通鋼分科会

第9回分科会 開催日：1月18日。場所：協会。出席者：木山主査他20名。

会議事項

1. Ceq ヒストグラムについての審議

鋼構造協会より SM 50 の $Ceq \leq 43$ は苦しい。 ≤ 46 にしてほしいとのメーカー側の要望が出されたが、これに対し

(a) $Ceq \leq 46$ を主張するなら溶接構造用鋼の JIS から Ceq の規定を取りはずす。

(b) $Ceq \leq 43$ の根拠はない。従つて ≤ 44 としそれ以上については Max 硬度、ビード曲げ試験による救済をはかる。

が考えられるとし、普通鋼分科会の第1次案は5種の SM 60 クラブに ≤ 44 を適用し 1~4 種には適用しない。第2次案としては鋼構造協会の $Ceq \leq 44$ を受けるとした。

2. 伸び値、曲げについての審議

曲げ規定は S S にそろえて板厚区分を廃止する。

SM材では板厚の如何を問わず曲げテストを行なう。各社よりの曲げテストの判定基準についての写真が提出され、それにより判定基準を作ることにした。

第10回分科会 開催日：2月18日。場所：本郷学士会館。出席者：木山主査他12名。

会議事項

1. 鉄筋コンクリート用棒鋼の降伏点の規定

建築学会では鉄筋コンクリート用棒鋼の建築工事の標準仕様として、降伏点を下降伏点にとつてあるので本協会として反対し、上降伏点をとるかでなければ JIS の改定の必要があるとの態度をきめ標準化委員会にはかる。

2. 原鋼板の A 級 B 級の許容差の取扱い

現在の規定では B 級の規定は使えないので、修正し使えるものにするため、富士製鉄で案をつくることになつた。

3. 形鋼のサンプリング場所について

現在サンプリング場所は規定されていないので H 形鋼、不等辺不等原の形鋼のサンプリング場所の調査を富士製鉄に依頼。

4. ISO TC17/WG10 と TC11/SC1 との合同会議資料検討

フランス提出の Recommendation の読みあわせを行なった。

鋼管分科会

第5回分科会 開催日：1月27日。場所：住友金属工業、東京支社。出席者：下川主査他13名。

会議事項

1. 鋼管規格に関するアンケート集計結果について

先に行なつた User 向けアンケートの集計結果の報告が行なわれたが、詳細な点の検討を行なわず、今後の改定作業の参考資料とする。

2. 今後の方針について

改訂作業を行なう組織について検討を行なつた結果、原案の素案は、当分科会で検討し、現行規格の問題点を確認後、原案作成分科会を組織し、作成作業を行なう。

3. ISO 関係について

鋼管関係試験方法の資料を、鋼管分科会委員会社にも配布する。

第6回分科会 開催日：2月24日。場所：住友金属工業，東京支社。出席者：下川主査他15名
会議事項

1. 鋼管関係 JIS 改訂に関する検討
以前鉄連規格調査委員会にて行なつた。鉄鋼メーカー向けアンケート，および本分科会にて検討した結果にもとずき，取上げるべき内容の検討を行なつた。
早急に取上げる問題として「配管用鋼管原案作成委員会」を作り，作業に入る。
2. 帯鋼規格新設の件について
今般，従来の SPN, SPH を1本にした熱延薄鋼板規格の作成作業を行なつている。これによると，従来の SPH 3~6 が除かれ鋼管用帯鋼対象規格がなくなる。この問題をどのように処理するかにつき検討を行なつたが，基本的には新たに作るという方針で検討を行なう。

高速度鋼分科会

第4回分科会 開催日：1月21日。場所：協会。出席者：荒木主査他21名。
会議事項

1. ハイスの区分について
W系，Mo系の区分について検討し，Mo%が2%以上のものをMo系とする。
2. 脱炭深さ測定について
今回の JIS 改訂においては，現行の脱炭層深さ測定法が，ハイスには適用し難いところがあるため，見送りにする。
3. 原案確認作業
適用範囲，種類，製造法は原案で可。化学成分を確認し，同時に各種ともその用途例の表現を再検討し，まとめを小委に依頼。検査項目については若干変更し，新たに磁粉探傷試験を追加。
4. 解説案の検討
幹事から解説記載事項の説明があり，次回に編集を行なうことにした。

第5回小委員会 開催日：2月23, 24日。場所：湯河原，大同泉荘，出席者：大沢幹事他9名。
会議事項

1. 原案の最終確認
第4回分科会で確認の原案草稿について最終確認を行なつた。一部字句訂正の他に，SKH5の焼ナマシカサを337(HrB)とすること，寸法許容差については，丸鋼径16未満で(+0.6mm, -0.3mm)，16以上30未満(+0.7mm, -0.3mm)，30以上70以下は(+2.5%, -1.0%)などの修正をみ答申案を完成した。
2. 解説原稿作成
大同，日特，日立金属，神鋼，不二越，日本高周波から提出の原稿をまとめ編集を行なつた。その結果，「まえがき」「解説」「参考」の3部分に分けて解説原稿が整理された。いわゆる JIS 解説は前2者とするのが認められ，後者はマニュアル的な性格

のものにまとめることにした。

熱処理用語原案作成分科会

第5回分科会 開催日：1月14日。場所：八重洲竜名館。出席者：佐藤主査他14名。
会議事項

- 小犬丸，皆木委員提出によるCグループの用語の説明について審議した。
解説は当分科会での原案にはつけず，本委員会にまかせることにした。

第6回分科会 開催日：1月26日。場所：神田学士会館。出席者：佐藤主査他14名。
会議事項

前回審議Cグループの説明のうち審議未了の物についての審議。

Aグループの用語の説明についての審議。
対応する英語名は英米両語のあるときは英語を採用する。

審議未了のAグループの一部およびBグループの説明については委員長の都合により田中先生に委員長代理をとってもらい，2月中に審議を完了させる。

第7回分科会 開催日：2月14日。場所：神田学士会館。出席者：田中委員長代理他11名。
会議事項

1. Cグループの用語の説明について審議。
前回審議Cグループの説明のうち審議未了のものについての審議。
2. Bグループの用語の説明についての審議。
A, B, C全グループの説明は終つたが，次回3月9日に全般の見直し索引について検討。

クリープ委員会

第5回運営幹事会 開催日：1月12日。場所：協会。出席者：俵，作井部会長他16名。

第6回運営幹事会 開催日：2月16日。場所：八幡製鉄会議室。出席者：俵部会長他15名。

技術部会

第1回幹事会 開催日：2月28日。場所：協会。出席者：俵部会長他12名。
会議事項

1. 協会クリープデータシート作成のための分科会設置について
協会規格を最終目標として，BS規格のデータシートの例もあり，勉強会として進めることが了承され，主査は暫定的に部会長がなり幹事会メンバーが全員なることが決定。
2. データシート作成のため試験鋼種の長期計画について
現在のデータシート分科会は火力の関係が中心であるので，石油化学機械関係のデータを集めるためこの分科会でアンケートをとり，その結果をもとに検討することになった。
3. クリープ委員会の業務計画について
学振129委第3分科で行なう共通試験(破断曲線)に協力すること，スペシメンバンク設置のため準備委員会(平主査)で準備作業を始めることなどが了

承された。

第2回部会 開催日：1月27日。場所：協会。出席者：作井，俵部会長他37名。

会議事項

1. JIS「クリープ試験法およびクリープ破断試験法」改正試案について
 2. 内圧円筒クリープ試験機仕様作成について
 3. クリープデータシート分科会について
 - 3-1, 41年度着手すべき試験鋼種とサンプル提供会社について
 - 3-2, クリープデータシート作成作業方案について
 4. 技術部会幹事会設置に関する件
 5. 技術部会の運営方針に関する件
 6. 鋼の高温特性に関する BISRA 合同会議派遣に関する件
 7. クリープ試験技術研究組合実施状況に関する件
- 上記の議題について経過報告ならびに承認が求められるいずれも原案どおり了承された。

クリープデータシート分科会

第3回分科会 開催日：1月27日。場所：協会。出席者：田中主査他23名。

会議事項

1. 試験鋼種および鋼材提供会社について
鋼材製造候補会社一覧表をもとに運営幹事会で管材，板材，ローター材，およびブレード材の4つのグループに分けられたことが報告され，材料試験部では大蔵省内示で来年度予算が20%減額されたので，耐熱鋼 SUS 50, TAF の2鋼種を次年度に延期し，11鋼種となつたことが了承された。
なお個々の鋼種のクリープ試験計画表の作成は，4グループ別に小委員会を開催，これに当該製造会社のほかユーザー3社および河田，横井両委員も出席することが述べられた承された。
2. クリープデータシート作成のための試験計画表について
用途別にサンプリング方法につき希望が述べられ各社の意見を求められた。
試験材の製造履歴，化学成分などの程度詳細に各社から報告してもらいが論議された。

小委員会 開催日：2月18日。場所：協会。出席者：田中主査他27名。

会議事項

鋼材製造候補会社を管材関係，ローター材関係，ブレード材関係，および板材関係の順で，グループ別に区分し2日間にわたり，試験材のサンプリング方法について小委員会を開催した。議事内容の概要は次のとおりである。

1. 各小委員会における共通事項
供試材料の履歴表(案)，およびクリープデータシート用試験片，ならびに分析試料採取要領(案)，ならびに供試材料の仕様と試験条件(案)の各項目につき審議を行ない了承された。
2. 各供試材料の履歴表の作成について
管材 (STB42, STBA22, 23, 24, 火SUS27, 29, 32HTB), ローター材 (1Cr-1Mo-0.25V), ブレード材 (12%Cr-Mo-W-V 鋼), および板材関係 (火SB49B, SA302-B) の順序に履歴表に記載すべき事項につき審議を行ない各グループはこれを了承され供試材の納期およびこの提供会社が決められた。

JIS改訂分科会

第3回分科会 開催日：1月26日。場所：協会。出席

者：平主査他19名。

会議事項

1. 引張クリープ破断試験方法改正試案の確認
適用範囲の表現を，引張クリープに倣い，「一定温度，一定荷重の条件のもとで…」とした。かつ種類については，「連続，断続」の2つの場合があるという表現にした。
試験機については，特に「単式と複式の試験機が用いられる」と明記した。その他1部字句修正。
2. 同上解説案の確認。
前回検討したものにつき，上記の変更に伴つて必要となつた事項を追加した。
3. 今後の取扱い
以上で作業を終了した結果，原稿を印刷，これを各委員に送付して，確認を依頼。異議ある場合は，主査の判断にまかせる。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物部会

第4回幹事会 開催日：2月18日。場所：八重洲竜名館。出席者：荒木部会長他20名。

溶鋼・溶滓グループ打合せ

開催日：2月23日。場所：協会。出席者：斉藤世話人他19名。

会議事項

前回に引続き，溶鉄—溶滓の高温における諸物性の測定に関する研究を推進すべく研究体制を如何にすべきか例えばテーマ毎にグループ活動を行なうかあるいは地区別に活動するかについての意見交換を行なつた。

次回は4月3日神田学士会館にて1) 研究体制のあり方，2) 研究構成員の決定について会合を行なうことになつた。

鉄鋼の照射試験研究合同委員会

第16回合同委員会 開催日：1月10日。場所：協会。

出席者：長谷川委員長他26名。

会議事項

1. 38年度試験について
11月～12月初めにかけて照射が行なわれ，12月5日に照射孔より引上げられ，1月7日よりグ解体が開始された。照射後試験は1月20日頃より開始される予定である。国内持ち帰り試料は，船便が決り次第 MAPI より原研へ連絡することとした。
2. 39年度試験について
1月15日の GEX 会議で今後の予定が決定される。また照射後試験は，4月中旬以降となる予定。
3. 40年度試験について
MAPI と協会間の契約については，精算払の方法をとらず，一定額 4,000万円とする。40年度国内照射後試験は中止する。
4. 41年度試験について
41年度試験の資金繰りについては，従来 60% であつた補助率を高めて各社負担金をできるだけ少なくしたい意向が多かつた。

第17回合同委員会 開催日：1月31日。場所：神田学士会館。出席者：安藤委員長代理他22名。

会議事項

1. 第1次，2次分経過報告
1次分照射後試験は1月17日より硬度測定開始。
1月24日よりシャルピー試験および引張試験開始。
2次分照射は1月20日より開始。

2. 立会について
3. 41年度計画について
原子力局への41年計画説明, 補助率 80% 引き上げを強く要望した。
4. 実験計画について
井形先生よりアンケートの結果要因として
 - a) 結晶粒度(転位密度)...オーステナイト粒度, 焼戻, 温度, 時間
 - b) 固溶原子...焼戻後の冷却速度
 - c) 1次炭素...N-T, Q-T

の3つを選び, 2水準, 各 Charpy 8本, 計48本としたい。また一次の結果によつて変更できる計画としたい旨の発表があつたが八幡はその修正案として3要因2水準, 2⁸ 完備型実験を提案した。この問題点については次回で再度検討することにした。

産業構造審議会産業技術部会製鉄分科会

開催日: 1月8日. 場所: 協会. 出席者: 田畑専務理事
事他.

会議事項

1. 経過報告

通産省工業技術院にある産業構造審議会産業技術部会で技術開発協力の強化を目的として各産業ごとに諮問し審議を進めている。製鉄業に関して鉄鋼協会にその協力を依頼してきたのでここで検討することになった。

2. 今後の進め方

一応集めてもらった人を構成メンバーとして, 製鉄分科会と名づけて各分野に分れ原案を作ることにした。

担当は

製鉄関係	日本鋼管(株)
原料関係	富士製鉄(株)
製鋼関係	八幡製鉄(株)
(電気炉のみ)	大同製鋼(株)
圧延関係	
鋼板	川崎製鉄(株)
鋼管	住友金属工業(株)
条鋼	(株)神戸製鋼所

とし, すでに原案のでき上つているものを参考にして原案を作成する。さらにその原案について各社の関係部所に配布し修正して工技院の方に回答することになった。

支 部 記 事

日本鉄鋼協会中国四国支部

当支部では昭和41年2月28日(月)第11回講演大会が下記により開催されましたのでお知らせいたします。

日 時 2月28日(月) 8:30~17:00

場 所 広島大学理学部講義室

特別講演 日本鉄鋼協会渡辺記念講演

講演会	「黒鉛鋼および黒鉛鋳鉄」	広島大学・東北大学教授 工博 丸山 益輝
	13クロム鋳鋼の流動性, 溶接性改善の研究	三菱重工広島研 平田 勇夫, 他
	ダクタイル鋳鉄の焼入性に及ぼす各種元素の影響	住友機械新居浜 多田 督治, 他
	ダクタイル鋳鉄の球状化に及ぼす脱ガス処理の影響	住友機械新居浜 河上 幹, 他
	鋼中非金属 inclusion 中のケイ素定量法の検討	日新呉川 西 薫泰, 他
	改良冷凍冷却法酸洗廃硫酸処理装置に就いて	東洋鋳下松 西田 久雄
	各種軟鋼板の再結晶硬度曲線について	東洋鋳下松 菊永 紘
	ステンレス鋼のハンダ性におよぼすフラックスの影響	八幡 光山 山口 美紀, 他
	乾燥転炉スラッジの焼結性について	日新 呉谷 辺 照光, 他

新 入 会 員 氏 名

(昭和41年1月1日~31日)

正 会 員	川瀬 平久	八幡製鉄(株)東研	一の瀬政男	〃 塚	山口 美紀	〃 光	吉野兼一郎	富士製鉄(株)釜石	高橋 昇	〃 室蘭	有村 透	日本鋼管(株)技研	小山保二郎	〃			
関 啓	渡辺 善和	柳沢 福	山本 通雄	岩崎 忠雄	戸田 聡	小西 正明	川畑 昭三	中本 嘉明	理研製鋼(株)	〃	三菱重工業(株)神戸	〃	三菱製鋼(株)東京	大阪製鋼(株)	大同製鋼(株)星崎	川崎製鉄(株)千葉	日新製鋼(株)
豊田 守	住友金属工業(株)	学 生 会 員	伊藤 洋二	名古屋大学工学部	草野 昭彦	〃 〃	吉田 稔	〃 〃	西嶋 清	大阪府立大学工学部	坂口 直記	〃 〃	垂井 稜	大阪大学工学部	芋谷 暢重	鉄鋼短期大学	
外 国 会 員	William M. Perry	(U.S.A.) Homer Research Laboratories, Bethlehem Steel Corp.	W. H. Mayo	(U.S.A.) U.S. Steel Corp.	L. H. Williams	(U.K.) London & Scandinavian Metallurgical Co., Ltd.											